

「世界農業遺産プランを活用して地域活性化を」

2017年11月3日

大分県竹田市久住町大字柏木都野公民館

大分県立三重総合高等学校久住校「地域の高校活性化支援事業」

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長 林 浩昭

国東半島宇佐地域は2013年、国連食糧農業機関(FAO)により“世界農業遺産”に認定された。国連教育科学文化機関(UNESCO)が認定する世界遺産とは根本的概念が異なり、厳しい条件下でも農林水産業が維持発展していく仕組みを認定するもので、未来指向の変化していく遺産である。

国東半島宇佐地域世界農業遺産のテーマは、「国東半島宇佐の農林水産循環」である。半島の山間部の広大な広葉樹林(クヌギ林)が、瀬戸内式気候で少ない雨水を涵養し豊かな森林土壌を生成し地域全体の水や栄養分の循環の起点になっていること、そこではクヌギ林を循環利用しながら原木しいたけを生産し生計を立てていること、涵養された水を連携式ため池に貯めながら分配することで水田や畑を潤しコメや七島イをはじめいろいろな作物が栽培できること、そして最終的には周辺の海の豊かさを保障していること、つまり森と里と海が強固につながり多様な自然と共生した農林業システムがうまく機能しているのである。

本講演では、(1)プロフィールおよび世界農業遺産への契機 (2) 世界農業遺産認定の意義 (3) 世界農業遺産での重要な生産活動と自然の共生 (4) アクションプランの実施と地域の活性化などについて話し、国東半島宇佐地域の今後を考えてみたいと思う。